

[From Clinical Laboratory]は検査に関するお知らせやピックス等を掲載し不定期に発行する情報紙です



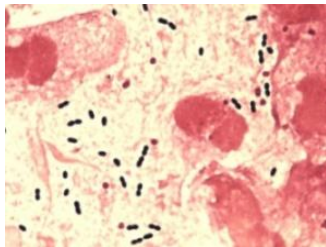
細菌検査の結果が出るまで!!

細菌検査室では患者様から採取される様々な材料から、感染症の原因となる微生物を検出し、それに対する有効な抗生剤を調べ、感染症の治療に役立てるデータを提供しています。今号では細菌検査の流れを紹介したいと思います。

採取された検体には目に見えない細菌がいます。始めに塗抹・染色をしてどのような菌が見られるかを中間報告します。次に菌を増やして、菌種を調べ(同定)、どの抗生剤が効くのか(薬剤感受性)を検査します。

<塗抹>

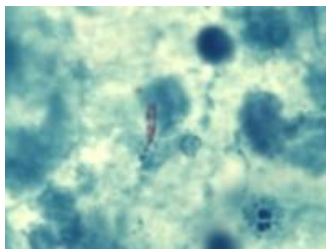
一般細菌は、グラム染色で染めると、濃紫色に染まるグラム陽性菌と、ピンクに染まるグラム陰性菌に分けられます。例えば、大腸菌はグラム陰性菌で、ブドウ球菌はグラム陽性菌の代表的な菌です。



<グラム染色>
グラム陽性球菌



<グラム染色>
グラム陰性球菌

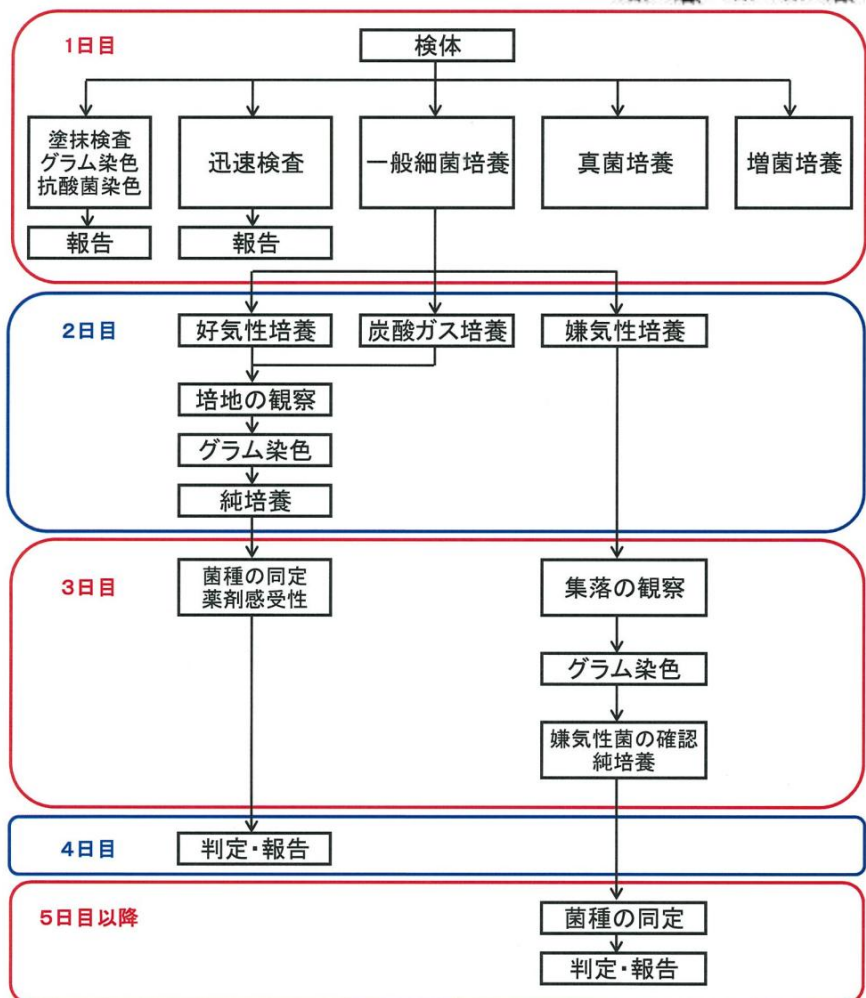


<抗酸菌染色>
ピンク色の菌体が抗酸菌です。



真菌

細菌検査フローチャート



<培養>

培養検査は、培地と呼ばれる寒天上に菌を発育させる方法で行います。細菌は生き物なので、早く育つものもいれば、遅いものもいますので、結果が出るまでに2～3日を要します。場合によっては、それ以上かかることもあります。



培地に発育した
グラム陽性球菌



培地に発育した
グラム陰性桿菌

<同定・感受性>

同定感受性検査は細菌自動分析装置を使用し、迅速で正確な検査結果を報告しています。



薬剤感受性
(ディスク法)



<迅速検査>

インフルエンザ、RSV、A群溶連菌、アデノウイルス、ロタウイルス、ノロウイルス、尿中肺炎球菌の検査を迅速に報告することが可能となっています。

また、抗生剤の使用により起こる下痢症の原因検索としてCD毒素の検出を行っています。

このように細菌検査室では少しでも早く結果を出し、治療に役立てる努力を日々行っています。

